

『論語』の中より

富が追求に値するほどの値打ち
を持っているものなり、どんなに
賤しい仕事についても、それを
追求しよう。だが、それほどの
値打ちを持たないなり、わたしは
自分の好きな道を進みたい



フ利

正しい道や道徳において富が
得られるなり、どんなに賤しい仕事に
ついては、それを追求しよう。だが、
正当な方法で富が得られない
のであれば、いつまでも富に恋々
としていることはない。

気に入らないこととして富を牛にある
よりも、むしろ貧賤に甘んじて
まっとうな生き方をした方がよい

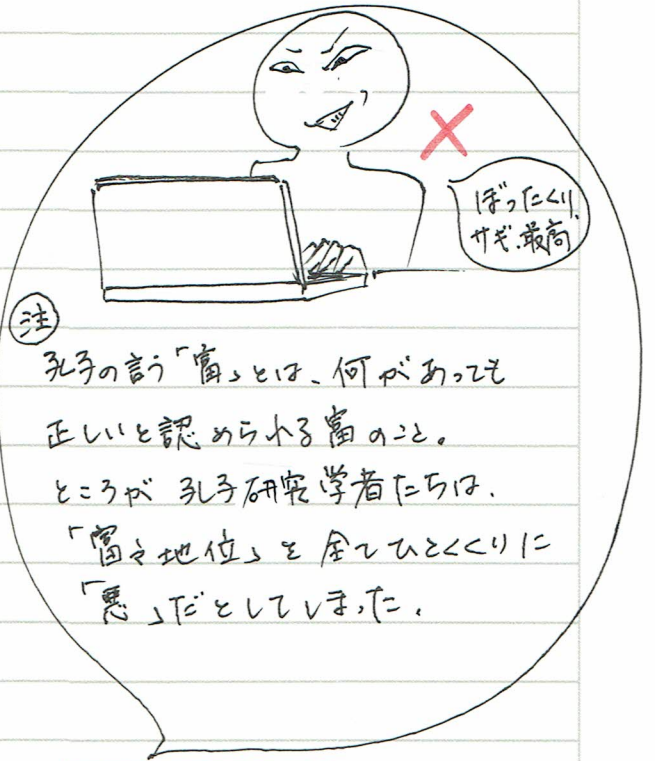


子め

まっとうな生き方において得られるならば、
どんなに賤しい仕事についても金儲けは、
しかし、まっとうではない手段をとるから
なら、むしろ貧賤でいたりたい

この言葉を誤解して
「富や地位」を軽視した
内容と受けとられがちだが、
そのようなところは一つもない。

まっとうな生き方に合しない
富は見やめた方がよいが、
好んで貧賤にいたる方がよい
などとはしていない。



注
孔子の言う「富」とは、何があっても
正しいと認められる富のこと。
ところが孔子研究学者たちは、
「富や地位」を金儲けとくりに
「悪」だとしてしまった。

孔子は、
富を得るためには、
賤しい仕事を元
軽蔑しなかった。

これが
事実。